

## 日本語で歌うナーサリーライム

遠 藤 幸 子

Singing English Nursery Rhymes in Japanese

Sachiko Endo

### 要 旨：

英語圏の子供たちが聞き、歌い、遊び、踊って育つといわれるNursery Rhymesを日本語で歌えるようメロディを生かして日本語にする試みである。

ナーサリーライムの日本語訳は大勢の人々によってたくさんの種類が出版されているが、原詩に忠実に、さらに詩としての完成度をもとめて訳されたものが大部分で、そのまま同じメロディで歌えるものは少ないと思われる。

本稿は「歌う」ということを第一の目的に原詩の意味や雰囲気をこわさず日本語にしようとする試みである。

### キーワード：

ナーサリーライム    歌う    英語    日本語    メロディ

### I. はじめに

本稿は、アルクの『うたおう！マザーグース 上巻』（以後、テキスト）に収録されている29篇の詩を日本語でも歌えるようにしたものである。歌えるということが主目的であるので、必ずしも英語のオリジナルの日本語訳ではない。メロディに合わせるため、訳し出されなかった部分もある。詩というものは意味と同時にリズムが非常に大切である。歌えるようにするという事は、詩のリズムを生かすということであるが、日本語にする際には、原詩の意味を正確に把握し、オリジナルのもつ世界や雰囲気を損

なわないよう心がけたつもりである。テキストには伝統的な詩に新たに付け加えた詩が挿入されている場合があったが、それは本稿では省いてある。

歌うことが目的であるため、テキストの楽譜を表記したいと考え、アルク出版部から許可をいただいた。従って本稿の楽譜はテキストのものをそのまま使っている。クレジットはすべての曲につけるべきであるが、最初の1曲のみに表記し、後の曲には省略した。本稿の楽譜はすべてアルクの『うたおう！マザーグース 上巻』から転載したものであることを明記しておく。

それぞれの曲に簡単な解説、日本語にする際に気をつけた点などを付け加えた。よく知られ

たメロディのものもあり、そうでないものもあるが、歌いやすい曲が多いので、口ずさんでみ

ていただきたいと思います。

## II. 日本語でうたうNursery Rhymes

### 1. Mary Had a Little Lamb メリーさんのひつじ

出典『うたおう！マザーグース 上巻』（アルク）

Ma - ry had a lit - tle lamb, Lit - tle lamb, lit - tle lamb,  
メ リ さ ん の ひ つ じ ひ つ じ ひ つ じ

Ma - ry had a lit - tle lamb, Its fleece was white as snow. And  
し ろ く て ま る で ゆ き の よ う

- |   |                           |                              |                           |                             |
|---|---------------------------|------------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| ② | Everywhere that<br>ひつじは   | Mary went,<br>ついていく          | Mary went,<br>ついていく       | Mary went,<br>ついていく         |
|   | Everywhere that<br>メリーさんの | Mary went, The<br>あとを        | lamb was sure to<br>どこまで  | go. It<br>も                 |
| ③ | followed her to<br>あるとき   | school one day,<br>がっこうへ     | School one day,<br>がっこうへ  | school one day, It<br>がっこうへ |
|   | followed her to<br>メリーさんに | school one day, Which<br>ついて | was against the<br>やってき   | rule. It<br>た               |
| ④ | made the children<br>みんなは | laugh and play,<br>わらった      | Laugh and play,<br>わらった   | laugh and play, It<br>わらった  |
|   | made the children<br>ひつじが | laugh and play, To<br>がっこうに  | see a lamb at<br>いるなん     | school. And<br>て            |
| ⑤ | so the teacher<br>せんせいに   | turned him out,<br>みつけた      | Turned him out,<br>みつけた   | turned him out, And<br>みつけた |
|   | so the teacher<br>せんせいは   | turned him out, But<br>ひつじを  | still he lingered<br>おいだし | near. And<br>た              |
| ⑥ | waited patient<br>ひつじは    | -ly about,<br>まっている          | -ly about,<br>まっている       | -ly about, And<br>まっている     |
|   | waited patient<br>ひつじは    | -ly about, Till<br>メリーさんを    | Mary did<br>まってい          | appear. "Why<br>る           |

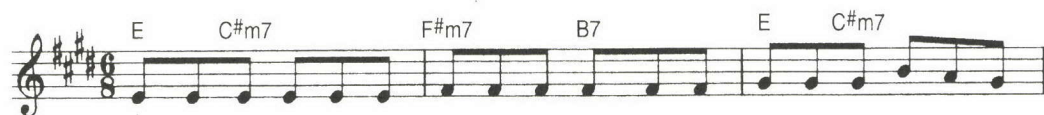
⑦ does the lamb どうして	love Mary so? そんなに	Mary so? そんなに	Mary so? Why そんなに
does the lamb ひつじは	love Mary so?" The メリーさんが	eager children すきな	cry. "Why, か
⑧ Mary loves the せんせいは	lamb, you know, いいました	Lamb, you know, いいました	lamb, you know. Why いいました
Mary loves the メリーさんが	lamb you know," The ひつじを	teacher did すきだか	reply. ら

おそらく英語の詩の中でもっともよく知られたものであるといわれるこの詩はボストンの Mrs. Sarah Josepha Hale (1788-1879) によって書かれたものとされている。羊が学校へついてくるといふ出来事はおそらくよく起こったであろうと述べられている。(The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes, Second Edition, p. 354. 以後ODNR 2) エジソンの蓄音機に初めて録音されたのもこ

の詩であった。

日本でも「メリーさんのひつじ、ひつじ、ひつじ」という歌は広く知られている。本稿でも最初のフレーズは同じように訳した。かわいらしく、微笑ましい詩なので、シンプルかつ歌いやすい訳をめざした。メロディはアメリカ版とイギリス版があり、本稿はよく知られたアメリカ版である。

## 2. Old Mother Hubbard ハバードおばさん



1. Old Moth - er Hub - bard Went to the cup - board, To fetch her poor dog— a  
ハバードおばさん いぬのえさをとりにとだな



bone; — But when she came there, The cup - board was bare, And  
へでもとだなはからっぽで



so the poor dog— had none. — 2. She went to the ba - ker's To  
いぬのえさはないそこでおばさんは



buy him some bread; But when she came back, The poor dog was dead.

パン やへ いっ た でも も どっ た ら いぬ は し ん で た

③ She  
お

went to the undertaker's To  
ばさんはそうぎやへ

buy him a coffin; But  
ひつぎをかいに でも

when she came back, The  
もどったら いぬは

dog was laughing. ④ She  
わらってた お

took a clean dish To  
ばさんさらもって

get him some tripe; But  
えさをとりに でも

when she came back, He was  
もどったら いぬは

smoking a pipe. ⑤ She  
パイプをくちに お

went to the fishmongers To  
ばさんはさかなやに

buy him some fish; But  
さかなかいに でも

when she came back, He was  
もどったら いぬは

licking the dish. ⑥ She  
サラなめてた お

went to the tavern For  
ばさんはいざかやへ

white wine and red; But  
ワインをかいに でも

when she came back, The dog  
もどったら いぬは

stood on his head. ⑦ She  
さかだちしてた お

went to the fruiterer's To  
ばさんはくだものやへ

buy him some fruit; But  
フルーツかいに でも

when she came back, He was  
もどったら いぬは

playing the flute. ⑧ She  
フルートふいてた お

went to the tailor's To  
ばさんはしたてやへ

buy him a coat; But  
コートをかいに でも

when she came back, He was  
もどったら いぬは

riding a goat. ⑨ She  
やぎのうえ お

went to the hatter's To  
ばさんはぼうしやへ

buy him a hat; But  
ぼうしをかいに でも

when she came back, He was  
もどったら ネコに

feeding a cat. ⑩ She  
えさやってた お

went to the cobbler's To  
ばさんはくつやへ

buy him some shoes; But  
くつをかいに でも

when she came back, He was  
もどったら いぬは

reading a news. ⑪ She  
しんぶんみてた お



went to the seamstress To ばさんはしたてやへ	buy him some linen; But シャツをかいに でも
when she came back, The dog もどったら いぬは	was a-sleeping. ⑫ She ねむってた お
went to the barber's To ばさんはとこやへ	buy him a wig; But かつらをかいに でも
when she came back, He was もどったら いぬは	dancing a jig. ⑬ She おどってた お
went to the hosier's To ばさんはくつしたやへ	buy him some hose; But くつしたかいに でも
when she came back, He was もどったら いぬは	dressed in his clothes. ⑭ The おしやれをしてた お
dame made a curtsy, The ばさんはえしゃくする	dog made a bow: The いぬはおじぎ お
dame said, "Your servant." The ばさんはよろしくね	dog said, "Bow-wow." いぬはワンワン

Nursery Rhyme の中でもきわめて有名なキャラクターである「ハバードおばさん」は1805年に活字として登場したが、一番から三番までの原型は1797年にすでにあった。その後14番まで

を Sarah Catherine Martin (1768-1826) が書いたとされている。(ODNR 2, pp.376-377)

犬とおばさんの楽しい物語で、これを読むと犬の笑っている顔が想像できるようである。

### 3. Tom, Tom, the Piper's Son 笛吹きの子、トム

Tom, Tom, the pi - per's son Stole a pig and a - way he run; The  
トムの とうさん ふえ ふき だ トムは ブ タを ぬ すん で ホラ

pig was eat And Tom was beat, And Tom went how - ling down the street.  
た べて し まっ て な ぐ ら れ て な い て と お り を に げ て っ た

子供のトムがブタを盗んで一体どうやって食べたかと思われるが、この豚は生きた豚でなく、

干しブドウなどを詰め込んだパイのようなお菓子で、18世紀にはこれを通りですり歩き呼び売

り商人がよく見られたという。(ODNR 2, p.493)

#### 4. Lavender's Blue ラベンダーの青い花

La - ven - der's blue, did - dle, did - dle, La - ven - der's green;  
 ラ ベン ダー あ お い は な は は み ど り

When I am king, did - dle, did - dle, You shall be queen.  
 ぼ く は お う さ ま き み き さ き

- |                |                         |                |       |
|----------------|-------------------------|----------------|-------|
| ② Call up your | men, diddle, diddle,    | Set them to    | work; |
| けらい            | たちには                    | すきもた           | せ     |
| Some to the    | plough, diddle, diddle, | Some to the    | cart. |
| にばしゃ           | ひかせて                    | しごとさ           | す     |
| ③ Some to make | hay, diddle, diddle,    | some to cut    | corn; |
| くさや            | コーンを                    | かりとら           | せ     |
| Whilst you and | I, diddle, diddle,      | Keep ourselves | warm. |
| ぼくと            | きみとは                    | あたたま           | ろう    |

もとは1672～1685頃の恋人たちの歌であったが、その後子供部屋の歌としてのみ歌われた。しかし1948年に Dinah Shore が “Lavender Blue” としてレコードを出し流行した。(ODNR

2, pp.312-3)

本稿は子供がちょっとおませな口をきいているという詩として訳した。

#### 5. This Little Pig Went to Market 5匹の子豚

This lit - tle pig went to mar - - ket, This lit - tle pi - g stayed home,  
 いち ば に い っ た こ ぶ た る す ば ん こ ぶ た



This lit - tle pi - g had roast beef, This lit - tle pi - g had none, And  
 ごちそう たべた こぶ た たべない こぶ た そして



this lit - tle pi - g said, Wee - wee - wee - wee - wee, All the way home.  
 このぶた は な き な が ら お う ち へ

“赤ちゃんの手や足の5本指を順々につまみ、  
 …手のひらや足の裏、わきの下をくすぐってあ  
 そびます”とテキストにもあるが、‘18世紀に

できた詩で現在まで一世紀にわたり最も有名な  
 指遊びうたとなっている。’ (ODNR 2, p.414)

## 6. Old King Cole コールの王さま



Old King Cole Was a mer - ry o - ld soul, And a mer - ry old soul was  
 よう きな コー ル の お う さ ま は パ イ プ と さ か ず き



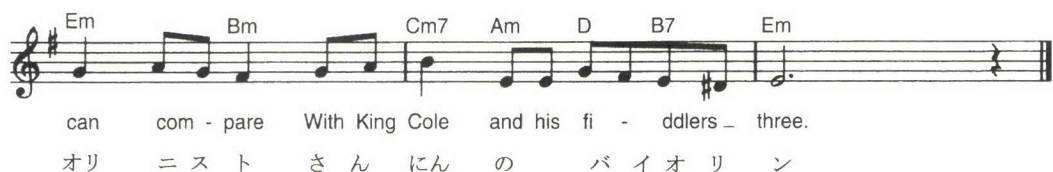
he; He called for his pipe, And he called for his bowl, And he  
 と そ し て パ イ オ リ ニ ス ト を さ ん に ん お し



called for his fi - - ddlers three.  
 ろ に よ び ま し た



E - - very fiddler, he had a fid - dle, And a  
 こ ん な に め ず ら し い も の は あ あ



Nursery Rhymes のうちで最も人気のある詩のひとつで、ナーサリーライムを集めた本のタイトルとして使われることがあるほどである。  
アン王女 (1665-1714) の時代からこのコールの

王さまは誰のことなのかという詮索がなされていた (ODNR2, p.157) ということで、詩の古さが知られる。

#### 7. I Saw Three Ships Come Sailing By 三そうのおふね



② And  
お

what do you think was ふねのう	in them then, Was えには だ	in them then, was れがいてで	in them then, And しょうか お
what do you think was ふねのう	in them then, On えには だ	New Year's Day in the れがいてで	morning? ③ Three しょう う
pretty girls were つくしい	in them then, Were しょうじよが	in them then, were おふねに	in them then, Three のって う
pretty girls were つくしい	in them then, On しょうじよが	New Year's Day in the さんにんで	morning. ④ And きた く



one could whistle,  
ちぶえと

one could sing, And  
おうたと

one could play on the  
バイオリンを

violin; Such  
もって わ

joy there was at  
たしの と

my wedding, On  
つぐひの

New Year's Day in the morning.  
おいわいを する

これは 'On Christmas Day in the Morning'  
というレフレインのある 'As I sat on a sunny  
bank' という古い祝歌の子供部屋版というところ  
で (ODNR2, p.455), メロディも歌詞も晴れ  
やかさ、嬉しさに満ちている。結婚の歌なので

幼い子供のものではないが, 少女たちはこの詩  
をきいて, 婚礼や花嫁をイメージしたのではな  
いかと思い, その雰囲気が出るように訳す努力  
をした。

#### 8. Sing a Song of Six Pence 6ペンスのうた

Sing a song of six - pence, A pock - et full of rye; Four and twen - ty black - birds,  
ろ く ペン スの う た う た お う よ つ ぐ み を パイ に

Baked in a pie. When the pie was o - pened, The birds be - gan to sing;  
や き こ ん で ②お う さ ま に だ せ ば う た い だ す

Was - n't that a dain - ty dish, To set be - fore the king? The  
す て き な り よ う り の で き あ が り ③

king was in his counting-house,  
おうさまひとりで

Counting out his money;  
かねかんじょう

The queen was in the parlor,  
おうひはおへやで

Eating bread and honey. ④The  
おやつです。

maid was in the garden,  
メイドはおにわで

Hanging out the clothes. There  
おせんたく

came a little blackbird, And  
おはなをつぐみに

snapped off her  
ちぎられ

nose.  
た

ODNR 2, p. 471によれば、この詩の王や王妃、メイドなどが何を表わしているかについては諸説あるが、パイを焼く時中に何か入れて楽しんだことを表わしている、というのが一番もっともらしく、16世紀のイタリアの料理本にも中に

鳥を入れて焼くパイのレシピが出ているとのことである。

この歌は現実の歴史とは切り離してやはり子供の歌として楽しんで歌えるようにと思って訳した。

## 9. Hush, Little Baby おやすみあかちゃん

E E#dim F#m F#m7 B7 E

Hush, lit - tle ba - by, don't say a word. Pa - pa's gon - na buy you a mock - ing - bird.  
おやすみあかちゃんとうさんがものまねどりをあげましょう

E E#dim F#m F#m7 B7 F#m7 E

If that mock - ing - bird won't sing, Pa - pa's gon - na buy you a dia - mond ring.  
②ものまねどりがなかなけりやダイヤのゆびわをあげましょう

- |  |  |
|--|--|
| ③ If that diamond<br>ダイヤがにせの<br><br>Papa's gonna buy you a<br>きれいなかがみを     | ring turns brass,<br>ものならば<br><br>looking glass.<br>あげましょう |
| ④ If that looking<br>かがみがわれて<br><br>Papa's gonna buy you a<br>おやぎをいっぴき     | glass gets broke<br>しまったら<br><br>billy goat.<br>あげましょう     |
| ⑤ If that billy<br>おやぎがくるまを<br><br>Papa's gonna buy you a<br>にばしゃとおうしを     | goat won't pull<br>ひかなけりや<br><br>cart and bull.<br>あげましょう  |
| ⑥ If that cart and<br>にばしゃがひっくり<br><br>Papa's gonna buy you a<br>ローバーといういぬ | bull turn over,<br>かえったら<br><br>dog named Rover.<br>あげましょう |
| ⑦ If that dog named<br>ローバーがぜんぜん   | Rover won't bark,<br>ほえなけりや                                |

Papa's gonna buy you a  
にばしゃとおうまを

horse and cart.  
あげましよう

- ⑧ If that horse and  
にばしゃとおうまが

cart fall down,  
たおれても

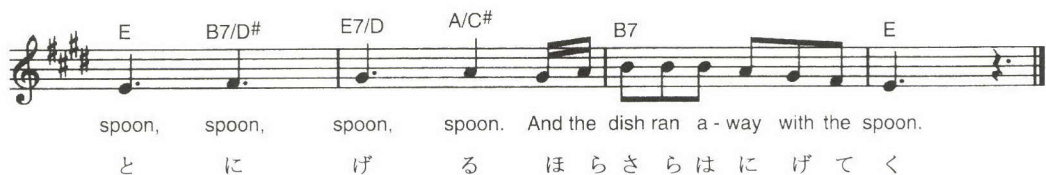
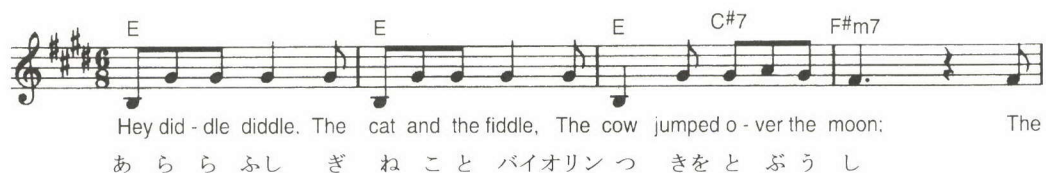
You'll still be the sweetest little  
おまえがいちばん

baby in town!  
かわいいいよ

ODNR 2 にはこの詩についての言及がないが、  
同じOpie夫妻の編集による *The Oxford Nursery  
Rhyme Book* (以後ONRB) と *Baring-Gould* の *The  
Annotated Mother Goose* (以後AMG) にはこの  
詩が載っている。両方とも同じ歌詞だが、テキ  
ストとは若干異なり、5 番までで解説はない。

*The Roud Folksong Index* (以後RFI) (注) に  
よると、この詩のindex番号は470で、アメリカ  
テキサスの女性が1910年ごろ子供のころの記憶  
にあったものを聞きとったとされている。これ  
が活字となったのは1977年だが、1948年にアラ  
バマで収集されたものが出版されている。

#### 10. Hey Diddle Diddle あららふしぎ



‘英語の詩の中で最もよく知られたナンセン  
スな歌、と言われるこの詩についてはたくさん  
のナンセンスな解説が付けられているが、その  
中でも信用できるものとして1765年ごろ活字と  
して登場したものである’ と述べられている。

(ODNR 2, p. 240)

この詩を読むと、意味も解釈も必要なく、ナ  
ンセンスとそのリズムを楽しみさえすればいい、  
という感じがする。

11. What Are Little Boys Made of? 男の子はなんでできてるの

What are lit - tle boys made of? What are lit - tle boys made of?  
 お と こ の こ た ち は な ん で で き て る の

Frogs and snails And pup - py - dogs' ta - ils, And that's what lit - tle boys are made of.  
 こ い ん の し っ ぽ か え る か た つ む り そ ん な も の で で き て る

- ② What are little girls made of? What are litte girls made of?  
 おんなのこ たちは なんでできて るの
- Sugar and spice And all that's nice, And that's what little girls are made of.  
 さとうスパイス すてきなもの そんなもので できてる

テキストにもあるように、この詩の原型は Robert Southy によって最初書かれたものとされている。ODNR 2, p. 117では男の子は 'snips and snails and puppy dogs tails' でできているというのが Southy のオリジナルであるとされている。snip とは切れ端というような意味だが、

snail との頭韻上使われたものであろう。

ほとんど直訳であるが、「男の子って、変なものでできているのよね」という女の子の気持ちと「女の子ってかわいいけど、ちょっと spicy (ピリッとしている、元気である) だよね」という男の子の気持ちで訳した。

12. The Three Little Kittens 三匹の子ねこ

The three lit - tle kit - tens, they lost their mit - tens, And they be - gan to cry, Oh,  
 さ ん び き の ね こ ち ゃ ん ミ ト ン が み つ か ら な い お

Mo - ther dear, we sad - ly fear That we have lost our mittens. What!  
 か あ さ ん ミ ト ン を な く し た の あ ら





Lost your mittens, you naugh - ty kittens! Then you shall have no pie.

い け な い こ ね パ イ は あ げ ま せ ん



Mee-ow, mee-ow, mee-ow, mee-ow, No, you shall have no pie.

にやお にやお にやお にやお パ イ が も ら え ない

② The  
さ

three little kittens, they  
んびきのねこちゃん

found their mittens, And  
ミトンを見つけ

they began to  
なきまし

cry, Oh,  
た お

Mother dear, see  
かあさんみ

here, see here, For  
てみてよ

we have found our  
みつけた

mittens. Put  
よ お

on your mittens, you  
ばかさんね

silly kittens, And  
ミトンして

you shall have some  
パイをおた

pie.  
べ

Purr-r, purr-r,  
ゴロゴロ

purr-r, purr-r, Oh,  
ゴロゴロ

let us have some  
いただきま

pie. ③ The  
す さ

three little kittens put  
んびきのねこちゃん

on their mittens, And  
ミトンをして

soon ate up the  
パイをたべ

pie; Oh,  
た お

Mother dear, we  
かあさん た

greatly fear That  
いへんだ

we have soiled our  
よごしちやった

mittens. What!  
よ あら

Soiled your mittens, you  
ミトンを

naughty kittens! Then  
よごしたの

they began to  
いけない

sigh.  
こ

Mee-ow, mee-ow,  
にやおにやお

mee-ow, mee-ow, Then  
にやおにやお

they began to  
ためいき

sigh. ④ The  
だ さ

Three little kittens they  
んびきのねこちゃん

washed their mittens, And  
ミトンをあらい

hung them out to  
ほしまし

dry. Oh,  
た お

Mother dear, do  
かあさん

you not hear That  
ミトンを

we have washed our  
あらった

mittens? What!  
よ あら

Washed your mittens, then  
いいこねだけど

you're good kittens, But  
すぐそばに

I smell a rat close  
ねずみがい

by.  
る

Mee-ow, mee-ow,  
にやおにやお

mee-ow, mee-ow, We  
にやおにやお

smell a rat close  
ねずみがい

by.  
る

Eliza Follen (1787-1860) の *New Nursery Songs*  
*for All Good Children* (1860) に載っている詩で

ある。歌詞はほとんど変わっていない。大変可  
愛い猫おやこの会話である。

13. Polly Put the Kettle on ポリー、おやかんかけてね

Po - lly put the ket - tle on, Po - lly put the ket - tle on,  
 ポ リー お や か ん を コ ン ロ に か け て

Po - lly put the ket - tle on, We'll all have tea.  
 み ん な そ ろ っ て お ちやに し ま し ょ う

Sukey\_ take it off a - gain, Sukey\_ take it off a - gain,  
 スーキー お や か ん を お ろ し て い い わ

Sukey\_ take it off a - gain, They've all gone a - way.  
 お きゃ く は み ん な か え っ た か ら

もとは18世紀の‘Jenny’s Bawbee’という曲  
 に合わせて作った詩でLondonで1810年ごろ大  
 流行した。(ODNR2, p.419)

イギリスとお茶の時間は切り離せないで、  
 子供がおままごとでお茶を用意しているという  
 イメージを描きながら訳した。

14. Baa, Baa, Black Sheep めえめえ、黒ひつじ

Baa, baa, black sheep, Have you a - ny wool? Yes, sir, yes, sir,  
 メエ メエ くろ い ひ つ じ さ ん けい とが さ ん ばい

Three bags full; One for my mas - - ter, And  
 とれ たの ね はい はい ひ と つ は



18世紀の半ばからはほとんど歌詞を変えることなく歌い継がれてきた詩である。(ODNR2, p. 101)

羊のなき声は本当に baa baaと聞こえるが,

日本ではメエメエが一般的なので、そのように訳した。

### 15. Hush-a-Bye, Baby おやすみあかちゃん



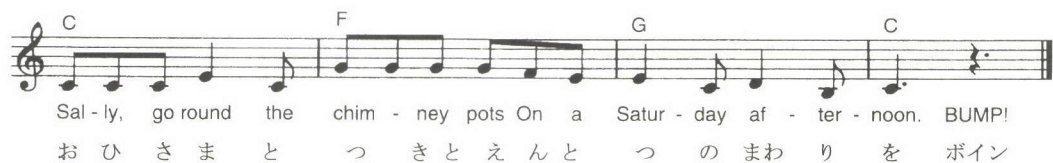
英米両国で、最も知られた子守歌であるが、詩とメロディの年代は不明。詩の初出はc.1765の*Mother Goose's Melody*である。(ODNR2, p. 70)

「赤ちゃんがおちる」という歌詞は子供を寝

かすのにぶつそうではないかと思われそうだが、それゆえにこそ歌い継がれたのかもしれない。メロディは子守歌にふさわしく優しい曲である。

### 16. Sally, Go Round まわれ、サリー





テキストには8番までの詩が創作されているが、オリジナルは一番の歌詞で曜日だけかえて歌うのが普通のようなのである。ONRBには一番の詩だけが‘Ring Dances’の頁に出ている。

ODNR 2 にはこの詩は掲載されておらず、解

説がないが、chimney-pot という語は OED によると初出が1830年なので、テキストにあるように19世紀以降の詩と思われる。Roud#11591, イングランドの曲で1909年出版の本に載っている。

# 17. Old MacDonald Had a Farm マックじいさん農場で

Old Mac - Don - ald had a farm, Ee - igh, ee - igh, oh. And  
マ ッ ク じ い さ ん の う じ ょ う で イー アイ イー アイ オー ほ ら

on his farm he had some ducks, Ee - igh, ee - igh, oh. With a  
あ ひ る を た く さ ん か っ て い る イー アイ イー アイ オー ほ ら

quack, quack here, Quack, quack there, Here a quack, there a quack, Ev - ery - where a quack, quack,  
ク ヲ ク ヲ ク ヲ ク ヲ ク ヲ ク ヲ あ っ ち も こ っ ち も ク ヲ ク ヲ ク ヲ ク ヲ

Old Mac - Don - ald had a farm, Ee - igh, ee - igh, oh.  
マ ッ ク じ い さ ん の う じ ょ う で イー アイ イー アイ オー

日本でもかなりよく知られたうたで、色々な動物とその鳴き声が出てくる。二番以降は好き

な動物を入れて、好きに歌うことができる。

初出は1917年アメリカでTommy's Tunesのな



かに 'Old Macdougall had a farm in Ohio-i-o'

鳴き声もでてくる。

で始まる詩があり、いろいろな動物が出てきて

# 18. Six Little Ducks 六羽のあひる

Six lit - tle ducks that I once knew, Fat ones, skin - ny ones  
あひ る が ろく わ おり まし た ふと いの や せ たの

they were, too. But the one lit - tle duck with the feath - ers on his back, He  
おり まし た ホ ラ ボ ス は せ な か に は ね は や し

ruled all the o - thers with his "Quack, quack, quack!" "Quack, quack, quack!"  
みん な を ひ き い て ガ ア ガ ア ガ ア ガ ア ガ ア ガ ア

Quack, quack, quack!" He ruled all the o - thers with his "Quack, quack, quack!"  
ガ ア ガ ア ガ ア と みん な を ひ き い て い き ま し た

- ② Down by the river they would go Wibble-wobble, wibble-wobble  
かわをくだって いきました よたよた よたよた  
to and fro.  
あちこちへ (くりかえし)
- ③ Home from the river they would come, Wibble-wobble, wibble-wobble  
おうちにむかって かえります よたよた よたよた  
ho-hum-hum!  
フンフンフン (くりかえし)

テキストには比較的新しいアメリカ民謡とある。ODNR2 には記載がない。Roud#7848で文

献初出は1952年アメリカである。アヒルというのはなんとなくユーモラスな鳥だが、この詩は

アヒルの感じがよく出ていると思う。アヒルが 一列になって歩いている様子を出したいと思っ  
て訳した。

19. Hickory Dickory Dock チクタク時計

Hick - o - ry dick - o - ry dock, The mouse ran up the clock. The  
チ ク タ ク ど け い ね ず み が の ぼ る と

clock struck one, The mouse ran down, Hick - o - ry dick - o - ry dock.  
け い が ひ と つ う つ ね ず み は に げ る

18世紀の終わりごろ、数え唄として作られた  
と言われている。また、子ども達の鬼決め歌と  
して歌われていたという説もある。(ODNR 2, p.  
244)

‘Hicory, dicory, dock’ というのはいかにも  
時計の振子の音を表しているようで、そのリズ  
ム感を出したいと思ったが、楽譜に当てはめて、  
「チクタク時計」とした。

20. The Grand Old Duke of York りっぱなヨークのこうしゃくさま

Oh, the grand old Duke of York, He had ten thou - sand men. He  
オ ー ヨ ー ク の こ う し ゃ く は お と も い ち ま ん に ん つ

marched them up to the top of the hill, And he marched them down a - gain. And  
れ て や ま へ の ぼ り ま す そ し て お り ま す う

when they were up they were up, And when they were down they were down, And  
え で は う え に い て し た で は し た に い て そ



19世紀の終わりごろの詩である。3段目の  
‘When they were up, they were up. And when  
they were down they were down’ のイタリッ  
クの部分の訳で迷った。テキストは「立ち上がる」  
「腰をおろす」という解釈である。また、  
「意気が上がっている」「意気が下がっている」

という解釈も可能かと思われる。しかし、本訳  
ではヨークの公爵のばかばかしい行動に合わせて  
「上にいるときは上にいる」「下にいるときは  
下にいる」という人をからかっているような  
表現にした。

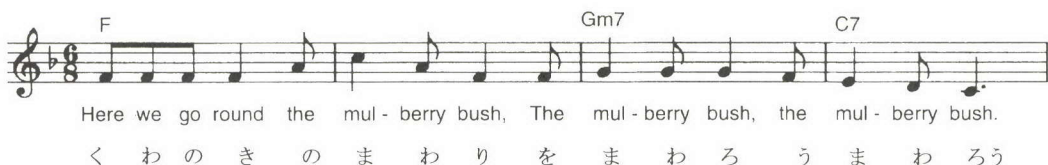
# 21. Row, Row, Row Your Boat こげ, こげ, ボート



日本でもこのメロディを知っている人は多い  
と思われる。繰り返しの多い軽快な原詩なので、  
「たのし」のところは「ラララ」でもいいかと

思う。初出は1962年アメリカで、1862年に出版  
された本にもこの詩への言及があるということ  
である。(RFI)

# 22. Here We Go Round the Mulberry Bush くわの木をまわろう





Here we go round the mul - berry bush On a cold and fros - ty mor - ning.  
 さ む い し も の あ さ も ま わ ろ う よ

この曲は続いて ‘This is the way we (do something)’ と続き、子どもの出来そうな動作を任意にいれて動きをつけて歌われた。元は ‘Here

we go round the bramble bush,…” と歌われたが、のち今の歌詞となった。(The Annotated Mother Goose, pp.251-253)

### 23. Bingo ヒンゴ



There was a farm - er had a dog, And Bin - go was his name, oh. B - I - N - G - O,  
 お ひゃくしょうさんの かっていた い ぬ の な は ビン ゴ ビーアイ エヌジーオー



B - I - N - G - O, B - I - N - G - O, And Bin - go was his name, oh.  
 ビー アイ エヌ ジーオー ビー アイ エヌジー オーそう ビンゴ と い う な よ

イギリスで1864年に出版された ‘Collection of Old Nursery Rhymes’ の中にある。当時の歌詞は ‘Farmers dog leap’d over the stile,…” で始まっていて、タイトルが ‘Little Bingo’

である。また、1887年ごろ収集された ‘Bobby Bingo’ という詩もある。ともにRoud # 589である。(RFI)

### 24. Pop! Goes the Weasel ポンといたちが出る



All a - round the cob - bler's bench, The mon - key chased the wea - sel. The  
 く つ や の ベン チ で い た ち を お っ て さ



mon - key thought 'twas all in fun. Pop! goes the wea - sel. A  
 る が ふ ざ け て る ポンと いた ちが で る い

pen - ny for a spool of thread, A pen - ny for a nee - dle,  
 と と は り を か っ て す っ か ら か ん に な る

That's the way the mon - ey goes. Pop! goes the wea - sel.  
 サ イ フ は か ら っ ぽ ポンと いた ちが で る

ODNR2にはこの曲はないが、ONRBとAMGにはともにテキストとは異なる‘Up and down the city road…’で始まる歌詞がのっている。AMGによるとこの歌は music-hall-song-cum-nursery-rhyme（ミュージックホールの歌だったが、

ナーサリーライムとなった）もので、weaselとは靴やの仕事道具である。それを金曜の夜に質入れてパブに飲みに行くことを歌ったものである。（p. 325）

25. Head, Shoulders, Knees and Toes あたま、かた、ひざ、あしのゆび

Head, shoul - ders, knees and toes, knees and toes,  
 あたま か た ひ ざ と あし の ゆ び

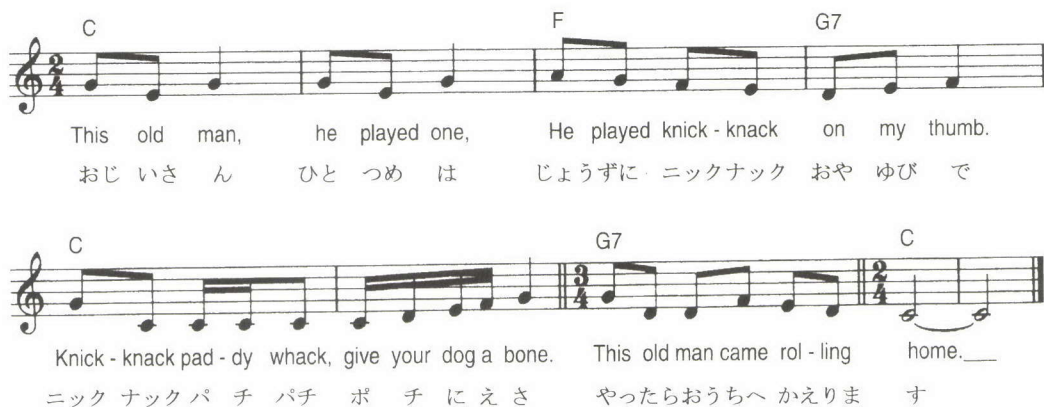
Head, shoul - ders, knees and toes, knees and toes, Eyes and ears and  
 あたま か た ひ ざ と あし の ゆ び め と み み



テキストにはイギリスの古い民謡『町の居酒屋』をアレンジしたものであると説明されている。<http://www.youtube.com/>で『町の居酒屋』と『Head, Shoulders, Knees and Toes』のメロ

ディを聞くとほとんど同じメロディである。しかし、この歌詞がいつ頃どこでできたのか不明である。

## 26. This Old Man おじいさん



Roud # 3550で1906年出版されたのはイギリスとなっているが、起源不詳である。(RFI) knick-knackとは「つまらないもの、装飾用の小物」という意味であり、paddy-whackとは「びしゃりと打つ音」の意味であるが両方ともここ

では何のことであるのかはつきりしない。この詩はほとんど原文の音をそのままにした。数え唄なので、2番以降は「ふたつめは、みつつめは」と続ければよいと思う。

## 27. Eency Weency Spider 小さなくもさん



Down came the rain and washed the spi - der out;  
 のぼ れ ば あめで な が さ れ る

Out came the sun and dried up all the rain; And the  
 おひ さ ま てった ら あ め か わ き ほら

een - cy ween - cy spi - der went up the spout a - gain.  
 ち い さ な く も さん ま た の ぼ る

AMGに出ているこの曲は “Incey wincey spider,…” で始まっている。‘incy-wincy’ は「小さな」という意味である。AMGにはクモの

動きを指で演ずるとある。テキストにも遊び方が載っている。

28. London Bridge Is Falling Down      ロンドン橋落ちる

Lon - don Bridge is fall - ing down, Fall - ing down, fall - ing down.  
 ロン ドン ば し お ち る お ち る お ち る

Lon - don Bridge is fall - ing down, My fair la - dy.  
 ロン ドン ば し お ち る さあ どう し よう

② Build it up with wood and clay,  
 かけなおしましょう

Wood and clay, wood and clay.  
 もくざいとねんどで

- |  |   |
|--|---|
| Build it up with wood and clay,<br>かけなおしましょう   | My fair lady.<br>マイフェアレディ   |
| ③ Wood and clay will wash away,<br>それではながされる<br>Wood and clay will wash away,<br>それではながされる               | Wash away, wash away.<br>もくざいとねんどでは<br>My fair lady.<br>マイフェアレディ          |
| ④ Build it up with silver and gold,<br>かけなおしましょう<br>Build it up with silver and gold,<br>かけなおしましょう       | Silver and gold, silver and gold<br>きんとぎんで<br>My fair lady.<br>マイフェアレディ   |
| ⑤ Silver and gold will be stolen away,<br>それではぬすまれる<br>Silver and gold will be stolen away,<br>それではぬすまれる | Stolen away, stolen away.<br>きんとぎんでは<br>My fair lady.<br>マイフェアレディ         |
| ⑥ Set a man to watch all night,<br>みはりをおきましょう<br>Set a man to watch all night,<br>みはりをおきましょう             | Watch all night, watch all night.<br>よるはずっと<br>My fair lady.<br>マイフェアレディ  |
| ⑦ Suppose the man should fall asleep,<br>みはりがもしも<br>Suppose the man should fall asleep,<br>みはりがもしも       | Fall asleep, fall asleep.<br>ねたらどうしましょう<br>My fair lady.<br>マイフェアレディ      |
| ⑧ Give him a pipe to smoke all night,<br>パイプをあげましょう<br>Give him a pipe to smoke all night,<br>パイプをあげましょう | Smoke all night, smoke all night.<br>ねむらぬように<br>My fair lady.<br>マイフェアレディ |

日本でも大変よく知られたロンドン橋のうたである。テキストの4番, 5番は後から付け加えたということで、ここには訳さなかった。O DNR 2では13番までがあり、3番と4番の間に、4「レンガとモルタルで架けなおそう」、5「それでは長持ちしない」、6「鉄と鋼で架けなおそ

う」、7「それでは曲がってしまう」という詩がはいる。

‘My fair lady’ というのは何のことか、なぜこの詩に登場するのかについては諸説あるが、ここではそのまま「マイフェアレディ」とした。



29. In a Cabin in the Wood 森のおうち

In a ca - bin in the wood, A lit - tle man by the win - dow stood.  
も り の お う ち に こ び と が い ま し た

Saw a rab - bit hop - ping by, Knock - ing at his door.  
う さ ぎ が と ん で き て ノ ッ ク す る

"Help me, help me, let me in, Or the hun - ter shoot me dead!"  
た す け て た す け て ド ア あ け て り よ う し が ね ら っ て る

"Lit - tle rab - bit, come in - side. Safe - ly you'll a - bide."  
う さ ぎ さ ん お は い り だ い じ ょ う ぶ

テキストには「アメリカの子供たちに人気のある」詩であると書かれているが、この詩についての資料はRFIで見つけることができなかった。<http://dragon.sleepdeprived.ca/songbook/songs>

3/S#-77.htmでは、“Sing A Song For Sixes”, Girl Guides of Canada, 1975; に似た歌があるとされるが、確認できなかった。『英語のあそびうた2』では、‘traditional’とされている。

### III. おわりに

Nursery Rhyme は古くは17世紀あるいはそれ以前から口承されてきた童謡である。正確な数は不明だが、『The Annotated Mother Goose』には884編の詩が載っている。また、新しい詩も加わりつつある。ここで日本語にした29点の詩の中にも、伝統的な詩もあり、また新しい詩

も含まれている。どの詩もそれぞれに楽しいが、新しいものは筋の通った詩が多いのに比して、古いものには動物あり、ナンセンスあり、王さまや女王さまが出てきて大変想像力を豊かにさせる。その世界や雰囲気を少しでも伝え、長く歌い継がれることを願いながら、日本語にする

ことを試みた。無理なく歌える日本語となっていれば幸いである。

最後に、楽譜の転載許可をいただいたアルク出版部に感謝したい。

## 注

The Roud Folk Song Index は英語で伝承されてきた歌を世界中から集めた143,000点におよぶデータベースである。

the Vaughan Williams Memorial Libraryのサイトの<http://library.efds.org/cgi-bin/home.cgi>から検索した。ここには詩のタイトル、一行目の歌詞、出典と年代、曲を収集した国名、典拠などが記載されている。詩にはRoudナンバーが付いている。本文には‘Roud#’として表記してある。

## 使用テキスト

『うたおう！マザーグース 上』アルク、初版2000年、2008年第8刷

## 参考文献等

### 【日本語文献】

ジョーン・ハーヴェイ、加藤恭子訳：『大人になってから読むマザー・グース』PHP研究所、1999年  
谷川俊太郎訳：『マザー・グースのうた 第1集』草思社、1976年 第22刷  
：『マザー・グースのうた 第2集』草思社、1976年 第12刷  
：『マザー・グースのうた 第3集』草思社、1976年 第11刷  
：『マザー・グースのうた 第4集』草思社、1976年 第3刷  
：『マザー・グースのうた 第5集』草思社、1976年 第3刷  
寺山修司訳：『マザー・グース』新書館、1985年 第2刷  
平野敬一：『マザー・グースの唄』中央公論社、1983年 第25版  
ピーター・ミルワード、小泉博一訳『童話の国イギリス』中央公論社、2001年  
薬師川虹一・豊田恵美子：『マザー・グースと英詩

の魅力』北西堂書店、1990年

吉竹迪夫：『訳詞と解説 まざー・ぐーす (上巻)』中教出版、1980年2刷

吉竹迪夫：『訳詞と解説 まざー・ぐーす (下巻)』中教出版、初版1977年

ラボ教育センター編集：『英語のあそびうた 第2集』ラボ教育センター、2000年 第2刷

### 【英語文献】

BARING-GOULD, William S & Ceil (Arranged and Explained) :

『*The Annotated Mother Goose*』New American Library, First Published 1967

FOLLEN, Eliza Lee: 『*New Nursery Songs for All Good Children*』

James Blackwood, Paternoster Row, 1860. Rpt. LaVergne, TN USA., 2010

MIYAKAWA, Yoshihisa. TOYAMA, Shigehiko (Edited) : 『*A Handbook of Nursery Rhymes Volume I Text, Volume II Concordance*』Kenkyusha, 1985

OPIE, Iona & Peter (Assembled) : 『*The Oxford Nursery Rhyme Book*』Oxford, 1955

OPIE, Iona & Peter (Edited) : 『*The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes New Edition*』Oxford, First Published 1951, New Edition Published 1997

### 【ビデオ】

『マザーグースがやってきた』全5巻、ラボ教育センター、TDKコア

『マザーグース 英語のうた』全6巻、いずみ書房、日本コロムビア

### 【website】

<http://library.efds.org/cgi-bin/home.cgi>

<http://www.bodley.ox.ac.uk/ballads/>

<http://www.youtube.com>

[http://dragon.sleepdeprived.ca/songbook/songs3/S3\\_77.htm](http://dragon.sleepdeprived.ca/songbook/songs3/S3_77.htm)